

製品名: Bmx (リン酸化 Tyr566) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04328**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	78kDa

抗原情報

遺伝子名	BMX
別名	BMX; Cytoplasmic tyrosine-protein kinase BMX; Bone marrow tyrosine kinase gene in chromosome X protein; Epithelial and endothelial tyrosine kinase; ETK; NTK38
遺伝子 ID	660.0
SwissProt ID	P51813
免疫原	抗血清は、ヒト ETK の Tyr566 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 532-581

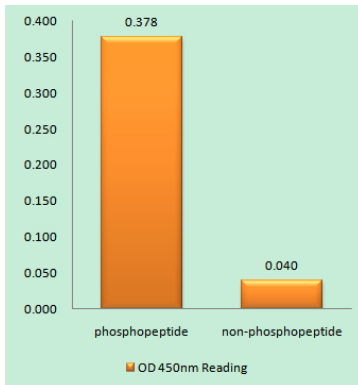
背景

この遺伝子は、Tec キナーゼファミリーに属する非受容体型チロシンキナーゼをコードしています。このタンパク質は、ホスファチジルイノシトール 3,4,5-三リン酸 (PIP3) に結合して膜輸送を媒介する PH 様ドメインと、チロシンリン酸化タンパク質に結合してシグナル伝達に機能する SH2 ドメインを有しています。このタンパク質は、Stat 経路を含む複数のシグナル伝達経路に関与し、いくつかの種類の癌細胞の分化と腫瘍形成を制御しています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2016 年 3 月],触媒活性: $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸$ 。補因子: サブユニットあたり 1 つの亜鉛イオンを結合します。ドメイン: SH2 ドメインは RUFY1 との相互作用を媒介します。機能: インターロイキン 6 (IL-6) 誘導性の分化にこの活性が必要です。造血細胞の増殖と分化に役割を果たす可能性があります。心内膜および動脈内皮細胞におけるシグナル伝達に関与している可能性があります。誘導: ホスファチジルイノシトール 3-キナーゼ (PI3-キナーゼ) 経路を介して IL-6 によって活性化されます。活性化は、ホスホイノシチドが PH ドメインに結合することによって起こると考えられます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。TEC サブファミリー。類似性: Btk 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。類似性: SH2 ドメインを 1 つ含む。サブユニット: RUFY1 および RUFY2 と相互作用する。組織特異性: 上皮細胞および内皮細胞で優先的に発現する。

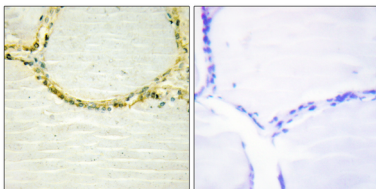
研究分野

-

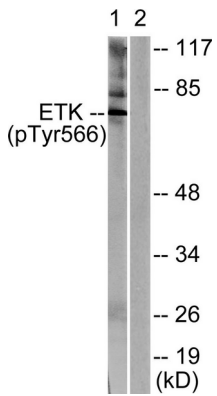
画像データ



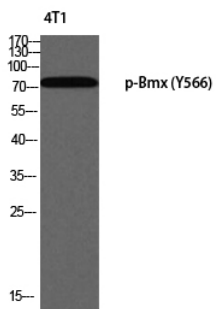
ETK (リン酸化 Tyr566) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



ETK (リン酸化 Tyr566) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト甲状腺の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 20% 15' で処理した HeLa 細胞ライセートの ETK (リン酸化 Tyr566) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



p-Bmx (Y566) 抗体を用いた 4T1 のウェスタンブロット解析。